

どんぐり保育園

園だより

“ねう”に会いに行こう



2025. 7月号

Eメール donguri_mori@cup.ocn.ne.jp

ホームページ <http://minnanomori.jp>

6月20、21日はそらさんのお泊まり保育でした。今年は“ねう”からの手紙をきっかけにたつぷりと“ねうの世界”を楽しみました。“ねう”とはいったい何者？と皆さんも思っているかと思いますが子どもたちも同じように何者？と思っています。でも、姿も形もわからない“ねう”だからこそ、一人ひとりのイメージは自由に広がり、思い思いに発言、表現ができていました。事務所にも子どもたちが来てよく“ねう”のことを話しています。“ねう”を語るとき子どもたちの目はとてもキラキラしていて、頭の中で色々な思いを巡らせながら、一生懸命伝えてくれる姿が印象的でした。

お泊まり当日は朝からねうの森を歩き、吊り橋を渡ったり、長い滑り台を何回も滑ったり、そのあと、近くの川に移動し、川遊びを全身で楽しみました。川も深さはあまりないところですが、ゴロンと寝転がったり、水をかけあったり、子どもたちの楽しい声が川中飛び交っていました。

お泊まり保育はそらさんならではの取り組みです。子どもたちはお泊まり保育の活動を通し、仲間を知り、仲間に頼り、頼られながら、絆を深めていきます。そして、集団の中で一人ひとりが役割を持ち、その役割を果たしていく中で集団の中に自分の居場所を確立し、一人一人の成長が集団の成長へとつながっていきます。そらさんたちもこのお泊まり保育でまた一つ大きくなり、今後に繋がっていくことでしょう。



子どもの生活リズムを大切に

私はこのお泊り保育を通して感じたことがあります。これまで子どもたちと何度もお泊まり保育を経験していますが、今回改めて子どもたちの姿から感じたことは“たつぷり遊んで、たつぷり食べて、ぐっすり眠って、すっきり起きる”という基本的な生活の大切さです。どんぐり保育園でも乳児の時代からずっと大事にしていることですが、「たつぷり遊んで、たつぷり食べて、たつぷり眠る」という基本的な生活リズムは幼児期になっても大切です。

今の時代は便利なものにあふれ、頭を使ったり、人と関わったりすることが昔に比べて減りました。世の中も労働時間が長くなり、慌ただしい毎日のなかでゆったりと生活を送ることが難しい時代ではあるかもしれません。また、メディアに触れる時間も長くなり、子どもたちにとっては刺激の多い生活です。特に寝る前に刺激が強いものに触れると入眠時や寝てからもしばらく脳に影響があると言われています。

しかし、こんな時代だからこそ、ご家庭でもぜひ、子どもたちの将来の為にも、一歩立ち止まり、生きる土台となる基本的な生活リズムの積み重ね、自分で考える力、判断、決断していく力など、今しかない子ども時代の過ごし方について向き合ってもらえたら幸いです。

今年の子どもたちも“たつぷり遊んで、たつぷり食べて、たつぷり眠って、すっきり起きて”そして「おなかすいた～」と言って、朝ごはんに向かっていました。

日頃から同じように生活をしていくことは難しいかもしれませんが、意識していくことは大切です。保育園での生活も人的・物的な環境の変化に加え、気候変動により活動を制限されることも多くなってきています。だからこそ、意識的に生活を作っていくことが求められているのかもしれません。私たちも、子どもたちの活動の在り方を今一度振り返り、子どもが夢中になって遊び込める毎日が送れるよう、楽しい保育園生活を職員同士で話し合いながら保育を進めていきたいと思っています。